

## 「じゆうがおか住区ニュース」

### 100号発行を迎えて

自由が丘住区住民会議  
会長 石川靖英



「じゆうがおか住区ニュース」は、自由が丘住区住民会議が広報紙として昭和53年1月14日に第1号を発行してから本号で第100号となりました。この「住区ニュース」は、住区内の様々な情報や活動を地域の皆様にお伝えする役目を果たして参りました。

自由が丘住区住民会議は、緑ヶ丘小学校と宮前小学校の校区を対象とし、自治会、町会、商店会や学校関係などから広く参加された実行委員の方々が各種委員会を組織し、お互いに協力しあいながら「安全で、住みよい、美しい街づくり」を目指して活動を続けております。活動にあたっては目黒区から補助金の交付を受け、また区の行政との協働活動にも積極的に参加、協力しております。

さて、恒例となっている行事が数多くあります。小・中学生を対象に、書初め、夏のキャンプ、工作ランドや絵画コンクールなどがあり、一般の方々にはおまつり広場、駅前清掃、歩こう会、料理教室、リサイクルセー

ルなどがあります。また自治会や町会との協働による防災訓練では、参加住民の防災意識を高める効果をあげております。

第六代広報委員長  
日下英男



先日広報特集に載せる原稿依頼を受け、懐かしさがよみがえりました。

私は平成3年から平成8年まで住区防災委員と共に広報編集に任期満了までたずさわりました。なんと6年間務まったのは、良きパートナーと一緒に活動することへの結びつき、協力、支えがあったればこそ楽しみながら続けられました。今でも当時の数人の方々と小旅行やお食事会にと交流を続けています。

念願の自由が丘駅構内のエレベーター、エスカレーター設置工事が進められており、また国土交通省指導のもとで実施された駅周辺での「交通安全実験」に住区住民会議も参加し、商店街振興組合、東京急行電鉄などとも連携して安心して歩ける街づくりに協力しあ

第七代広報委員長  
林 幸子



住民会議でワープロを購入し、原稿づくり、ワープロ原稿の切り張り、紙面構成を決定し、印刷所に回す。今から思うと随分幼稚な作業をしていた、そんな時期でした。

取材では、「街の印象を聴かせて下さい」と自由が丘に勤務する外部の方の声を集めたり、季節感の取り込みに気づき、熊野神社初詣風景には除夜の鐘の鳴る前の大晦日の夜半に出かけた情熱は忘れられません。また、未曾有の阪神・淡路大震災の教訓や、ボランティア活動の尊さを参加者の体験記として編集した事なども思い出されました。

今改めて理想のわりに出来映えは如何でしょうかと気にしています。広報を担当し多くの方との関わりが広がり、実り多いものでした。

10月23日(日)雲ひとつない秋晴れのもと、第29回おまつり広場が開催されました。

第八代広報委員長  
松原純子



広報の仕事は本来とても多岐にわたるもので、住区住民と住民会議の双方の交流を目指すものでなくてはと言われ、委員会でも折にふれてその大事さを感じていました。

それが当時皆で、住民会議活動を知ってもらうには？若者の参加を促すには？と知恵を絞って「住み慣れた町でいきい

た皆様、アンケート、調査、貴重な写真を提供して下さい。下さった方々の御協力あればこそ、「じゆうがおか住区ニュース」の発行に係われたことに、改めてお礼申し上げます。

きと暮らすには」を主題に特集を組み、子育て・介護保険・放置自転車問題をはじめ安全なまち作りなど、区職員や身近な専門家を講師にお願いした座談会や取材を通じて勉強したことを楽しく思い出します。地域・環境・防災・青少年の各委員会から集まった広報委員が、それぞれの活動やテーマについて話し合い考え合ったことも、広報委員会の活動として大事なのではないかと思っております。

昔から「〇〇字以内にとめよ」というのが全くダメな私が広報委員長など恐れ多いことでしたが、皆さんの強力なサポートに深く感謝しております。

健康に育つ上で極めて大切なことです。そう言う意味で、十一中生は健やかに育つ土壌に恵まれていると思っております。

また、本校は隣に東京工業大学もあり、大学と連携を図ることができ、また教育環境も整っています。そのため「文教の十一中」を学校の特色として打ち出し、朝読書や少人数、習熟度別学習等を取り入れ、保護者や生徒のニーズに応える教育活動を推進しています。

清瀬市から今年4月に第十一中学校に赴任してきました。清瀬市は埼玉県新座市に隣接しており、武蔵野の自然が色濃く残る地域です。自由が丘と聞くと、華やかでおしゃれな街というイメージがあり、その地域にある中学校とは、私は期待と不安を持ちました。しかし、生徒は実に落ち着いており、学習・生活ともに真面目に取り組んでいました。

住区があり、活発に活動していることが関係していると考えます。子どもの成長には、家庭が最も重要なのは言うまでもありませんが、地域社会がしっかりとしていることも、子どもが心身ともに健全に育つ上で極めて大切なことです。

また、本校は隣に東京工業大学もあり、大学と連携を図ることができ、また教育環境も整っています。そのため「文教の十一中」を学校の特色として打ち出し、朝読書や少人数、習熟度別学習等を取り入れ、保護者や生徒のニーズに応える教育活動を推進しています。

公立学校として、何より地域に愛される十一中を目指しています。是非よろしく願います。

第十一中学校校長  
東川 正二郎

### おまつり広場・みどり

10月23日(日)雲ひとつない秋晴れのもと、第29回おまつり広場が開催されました。



